

アナウンサーとして、解説委員として、国会議員として、そして大臣として
元厚生労働大臣 小宮山 洋子先生

高田 順江

政治家になるべくしてなった人

高い志をもち、政策を構ずる能力と、実現させる方法論を熟知している、だから政治家として社会を変革できた人だ、と改めて尊敬できた。

政治家になろうという方は、高い志はお持ちだが、少なからず施策のための方法論を身に着けていないがゆえに、霞が関を敵にまわしてしまう。これもマスコミの「脱官僚」という作られたアジテーションに、わたしたち市民が振り回されたのではないかと残念に思うところである。

しかし、小宮山さんは見事に霞が関をシンクタンクとして活用された。政治家にはシンクタンクが必要である。日本の官僚は政治色抜きで政策を立案できる行政のプロ集団だ。もちろん高い志を持った方も多い。3分話して、人となりを見極められると言われた小宮山さんもすごい。人材なくして政策は進められないから、この見抜く力を持った小宮山さんだからこそ、政治家として実績を積み重ねられたと納得した。

激務すぎる大臣

『厚生労働大臣・副大臣742日』の大臣としての日々を読ませてもらったが、10分おきの事務説明やら、タクシーの中での答弁のための勉強やら、確かにタフでなければまず勤まらない。こんなに分刻みのスケジュールで追われて、自らの政策のための時間はどうやって確保できるのだろうか。さらに、ご家庭では子育てや家事を手抜きせず、楽しんでこなす。スーパーウーマンというほかないだろう。

また厚生労働省の所管する業務があまりに広く、官僚トップの事務次官が実権を握っているであろうと思われる。しかしながら、小宮山さんがミッションとする子育て支援を軸にぶれずに政策を貫き通したことで、事務次官をも味方につけていったに違いない。できる女の必須条件は、有能な人材に尊敬される人格であることだ。小宮山さんの柔らかな表情から、それが感じられる。女性の活躍をもっともっと期待したい。

働く「なでしこ」大作戦

12(H24)年5月22日、内閣府「女性の活躍による経済活性化を推進する関係閣僚会議」で、厚生労働省案(働く「なでしこ」大作戦)を小宮山さんは大臣として提案した。女性支援のための女性センターが全国にできて(横浜市は88年女性フォーラムが開館)早4半世紀が経とうとしている現在もなお、遅々として進まない女性の現状は歯がゆく思う。しかし、子ども・子育ての視点で、老若男女ともにこの課題に取り組むよう仕向けてくれたことは大いに前進だと思う。

小宮山さんのような方が政治の世界にいてくれたら、社会変革も進むだろうと思うと、引退は残念だが、持続して活躍できる次世代を育てるのも私たち市民の役割だと痛感した。

♥小宮山洋子さま、ご講演ありがとうございました。

団塊世代は、常に新しい社会を形成していくゴールデンエイジです。これからも、ご自身の生活を楽しまれるとともに、政策ジャーナリストとして、ますますのご活躍を願ってやみません。